編集後記・Editorials

魚類学雑誌 66(2):299–299
2019 年 11 月 5 日発行

魚類学雑誌 66 巻 2 号をお届けします．元号が令和になって初めての魚類学雑誌となりますが，本号の会員通信には，魚類学者でもある上皇陛下の研究や業績が紹介されています．本号は，原著論文，記録・調査報告，書評，図書紹介，会員通信のすべてのカテゴリーが充実したものとなっており，たいへん読み応えのある号となっているのでないでしょうか．

私は本号をもって和文誌主任を退任いたしますが，私が和文誌主任として最初に編集を担当した 62 巻 1 号です．その時の編集後記には，以下のように書いていました．「本号ですが，原著論文のほうは，本論文 3 編，短報 2 編とコンパクトなものとなりました（以下略）」．それを考えると近年の魚類学雑誌は，冊子体の厚みも申し分なく，その充実ぶりは和文誌としては目を見張るものがあると言ってもよいのではないでしょうか．これは，投稿規定の改定や J-STAGE を利用した早期公開制度の導入によって，会員の皆様にとってメリットがあるような雑誌に変革されてきたことが原因の一つでしょう．今後も新和文誌主任（田城文人氏）のもとで，時代に即した和文誌として，新しい取り組みがなされていくことでしょう．5 年間，会員の皆様には，著者や校閲者など，さまざまな形でたいへんお世話になりました（ただし，次期編集委員長としてまだ数年は編集委員会に残る予定です）．

66 巻の編集にあたり，下記の方々に原稿の校閲でご尽力いただきました．ここに記してお礼いたします（敬称略）．

遠藤広光，藤本泰文，波戸岡清峰，飯田　碧，今村　央，稲村　修，石崎大介，岩坪洸樹，甲斐嘉晃（18），鹿野雄一，片山英里，片山知史，河村功一，川瀬成吾，亀甲武志（2），木村克也（2），北川忠生，小枝圭太（2），小北智之（17），桑村哲生，松沼瑞樹，三澤　遼，宮腰靖之，宮崎佑介，水町海斗，森田健太郎，向井貴彦（3），村瀬敦宣（2），中江雅典，中村洋平，中野（小西）　繭，中山耕至，中山直英，大橋優季，岡本　誠，鬼倉徳雄（2），斉藤憲治，坂井陽一，佐久間　啓，佐々木邦夫，佐藤拓哉，佐藤行人，田畑諒一，高橋さち子，高井則之，武島弘彦，坪井潤一，上原一彦，柳下直己，山崎　曜，山﨑千登勢，山崎裕治，渡辺勝敏．

（小北智之）